

仏教用語の今昔

—翻訳はいかにして可能か—

バウッダコーシャとは、仏教用語をそれぞれの定義や主要な用例にもとづいて、なるべく平易で適切な現代語に翻訳するプロジェクトです。今回の公開シンポジウムは、本プロジェクトの成果と方法を公にしつつ、その意義や問題点、あるいは可能性をめぐって多くの参加者の皆さんとともに論じ合いたいと考えています。今回もまた、3つの個別の発表とともに、「般若」や「智慧」と訳されることの多い *prajñā* (Pāli *pañña*) に焦点をあて、先端的な研究を進める各方面の専門研究者に声をかけ、縦横に論じてもらいます。紅葉も美しい秋のひと時、多くの出席者とともに、「智慧」をめぐって考え、論じ、理解を深める機会にしたいと願っています。皆さまのお越しを期待しております。

バウッダコーシャ・プロジェクト (科研費(S) 研究代表者) 斎藤 明

- 日時：2014年11月15日(土) 13時30分開会
- 場所：東京大学仏教青年会(本郷ビル2F) ホール AB (地図は <http://todaibussei.or.jp/access.html>)
- 照会先：バウッダコーシャ科研事務局 (メールにてお願いします。 b_kosha@l.u-tokyo.ac.jp)
- プログラム

挨拶(代表：斎藤明)

第一部：研究発表(20分の発表後、5分程度の質疑応答)

- 13:35 高務祐輝(京都大学大学院博士課程)
『『瑜伽師地論』における認識(vijñāna)のプロセス—前五識と意識—』
- 14:00 堀内俊郎(東洋大学国際哲学研究センター研究助手)
『『釈軌論』第二章における世親による阿含の経句の語義解釈
—仏教用語の現代語化への一助として—』
- 14:25 石田尚敬(東京大学特任研究員)
『瞑想者(yogin)の知覚』

(休憩 14:50~15:00)

第二部：特別シンポジウム「*prajñā*/*pañña* の訳語をめぐって」

- 15:00 趣旨説明
- 15:05 中村隆海(東北大学大学院出身・寺院住職)：ヴェーダ文献の *prajñā*-
- 15:25 河崎 豊(大谷大学真宗総合研究所特別研究員)：パーリ文献の *pañña*
- 15:45 一色大悟(東京大学特任研究員)：説一切有部の *prajñā*
- 16:05 高橋晃一(東京大学特任研究員)：瑜伽行派文献の *prajñā*
(休憩 16:25~16:35)
- 16:35 横山 剛(京都大学大学院博士課程)：中観派文献の *prajñā*
- 16:55 菊谷竜太(東北大学特任研究員)：密教文献の *prajñā*
- 17:15 渡辺章悟(東洋大学教授)：般若経の *prajñā*
- 17:35 斎藤 明(東京大学教授)：総括
- 17:45 質疑応答(約30分を予定)

閉会の辞(18:15頃を予定)

予約は不要です。